

1 日時 令和5年2月3日（金） 13:30～16:00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階 71 会議室

3 出席者

(1) 委員（五十音順、敬称略）12人出席/12人全体

馬居委員、狩野委員、塩野委員、鈴木(拓)委員、鈴木(学)委員、高木委員、高松委員、永野委員、橋本委員、初芝委員、堀住委員、横澤委員

(2) 上下水道局職員

森下公営企業管理者、服部上下水道局長、榊原局次長兼水道部長、望月下水道部長、星野水道技術担当部長、柴経営企画課長、山内水道総務課長、森本お客様サービス課長、藤田参与兼水道基盤整備課長、森田参与兼水道管路課長、稲葉水道施設課長、浅井水質管理課長、石野水道事務所長、川越清水水道施設担当課長、小塩葵北水道施設担当課長、瀧戸水道維持担当課長、川口下水道総務課長、大石参与兼下水道計画課長、石原下水道建設課長、大石下水道維持課長、戸塚下水道施設課長、石田下水道事務所長、難波浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

柴経営企画課長、大石参与兼下水道計画課長、外6名

4 傍聴者2人（報道2社）

5 内容

(1) 開会

(2) 議事

① 高橋雨水ポンプ場の再発防止の取組及び進行管理について

資料1 再発防止に向けた取組【進行管理シート】

《質疑応答》

[高木委員]

今回の件で職員の処分があったかと思うが、役職と処分の内容を教えてほしい。

[山内水道総務課長]

課長等及び一般職員を懲戒処分とした。

[高木委員]

コンプライアンス研修については、課長級以上を対象とした説明があったが係長級の職員に対しても実施してはどうか。

また、説明を聞いて受けている印象としては、チェック作業に関わる人数が少なすぎて問題を把握できる人がいなかったのが問題ではないか。もう一人チェックする人を増やすなどしたらどうか。

[大石参与兼下水道計画課長]

今回は、課長級だけでなく、係長級職員等にもリモートを交え参加を募った。今後も研修は幅広く機会を設けるようしていきたい。チェックリストについては担当職員だけでなく上位にあげていく過程で

の確認を強化する。

[高木委員]

今回、課長までチェックしたにもかかわらずミスが起きたと理解したため、課長より上位のものがチェックするようすればよいと考えたのだからいかかがか。

[大石参与兼下水道計画課長]

今回の事案は、チェックリスト自体が作成されていなかったのがそもその問題であったため、それを作成し、担当者、係長、課長までチェックする体制を整えたものである。

[鈴木会長]

いかなる組織でもこのような問題が発生するリスクを孕んでいる。示していただいた恒久対策を徹底し、これからも緊張感をもって取り組んでいただきたい。

② 静岡市上下水道事業経営戦略の改定について

資料2 静岡市上下水道事業経営戦略の改定について

資料3 パブリックコメント結果について

《質疑応答》

[永野委員]

資料2の2ページにある管路の更新率だが、これは年間の数字ということでよいか。

[柴経営企画課長]

そのとおりである。

[永野委員]

承知した。前回と比べ企業債残高を減少させているので、そこは良い印象がある。資料2の10ページで浸水対策の「対策完了地区への追加的な対策実施」とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか伺いたい。

[大石参与兼下水道計画課長]

具体的な対策はこれから検討するが、対策実施地区については、河川への放流を今以上増やすことでは対策できないため、河川に流す前の貯留機能の強化を検討していきたい。

[狩野委員]

水道料金については、令和2年度に15%弱の値上げをしたが、今回の計画では7年度と11年度でさらに15%を見込んでおり、令和初期と比べると45%ほどの増加となる。これに対し、あまりにも大きな値上げなので、市民の理解は得られるか心配しているが、これについてどのように考えているか。もう少し緩やかな値上げを行うなど対策は考えていないのか。

[柴経営企画課長]

今後、検討をしていく中で、市民生活と事業経営を考えながら、大きく改定するようなことがあれば、市民に寄り添った対応として段階的な引上げについても必要であると考えている。

前回の値上げによる一般家庭への影響については、一般家庭20㎡で全国平均では3,300円に対し、静岡市は14.8%値上げ後でも2,600円とまだ平均よりも安い。政令市だと真ん中くらいの料金水準。他都市の方向性も見つつ、改定率は注意しながら検討する。また、来年度からは公営企業の会計に詳しい公認会計士と連携しながらどうあるべきかを改めて検討していきたい。

[高木委員]

公共料金を含め、世の中全てが値上がりしている。原材料費の高騰が原因であるため仕方がないことであるが、どれもいきなり大きな値上がりとなるので非常に乱暴な印象を受ける。そのようななか、段階的な値上げを考えている水道事業において、市民にどのような広報を考えているのか教えてほしい。

[柴経営企画課長]

水道はほとんど電気を動力に供給しているが、年間6億円だったものが直近で9億円くらいまで上がっており、これは収入全体3%にあたる。建設投資にいたっては資材費等が4割くらい上がり、総コストが全体的に上昇している状況にあり、他のインフラと同様値上げは避けて通れない。

市民理解の肝になるのは、水道事業の努力でどの程度コスト縮減しそれを示していくのかだと考えおり、建設コストをいかに下げることができるか内部で検討を進めている。これら経営努力によってもなお不足する部分について、未来の世代にツケを回さないよう、料金改定によって健全な経営を保つことになる。

前回改定時も心掛けたが、水道料金に対する市民の理解がとても重要だと考えている。当たり前のように供給されている水道水にいかに労力がかかっているのかの周知を料金改定の時だけではなくて日常的に発信していくことが重要であるため、中期経営計画でもその点を考慮している。これまでは授業の一環として子供に講義することが多かったが、今後は主婦層や大人に向けての広報を意識していきたい。

[高木委員]

利用者は「どんなにお得か」ということに敏感である。日本人は水と安全はタダと考えており、静岡の人は自分たちがおいしい水を安価に使っている自覚がなく、旅行などで外へ出て初めてそれを実感する。全国的に見てもおいしい水を生活用水として使用している贅沢な状態であることをアピールしていくのも一つの手だと考える。

[初芝委員]

水道料金について補足させてもらうが、全国平均を見ても毎月の支出のうち、水道は1%にも満たない。また、下水道と合わせてかつ2カ月まとめて請求がくるので高い印象を与えがちであるが、その他の支出と比べても安いことを示すことも手段のひとつであると言える。

それと資料3をみてパブリックコメント結果を見て、若年層の割合が高くて驚いた。何か特別なアプローチをしたのか。

[大石参与兼下水道計画課長]

パブリックコメントについては専門学校での広報に加え、連携事業を実施した近隣の大学にも協力をお願いした。

[鈴木会長]

この会で何度か発言しているが静岡市の水道事業は財政的にとても厳しい。企業債残高が下水道は元々が相当な金額あるが、減少に転じている姿勢が表れており、概要資料にもその内容をグラフで示している。

水道事業の総額は下水道事業の半分以下だが、まだまだ増やすと示しており、令和16年度以降は減少に転じるとの説明であったが、この間に2回の値上げに加え、説明にあったように資材と人件費の高騰がどこまでいくかはわからない。企業債残高は、将来に負担を残すべきではないから減らさなければいけないので、そのあたりをもう少し考えていただきたい。

パブリックコメントで老朽化や強靱化に力をいれたいとあるが、どれも資金がなければできないこと

である。公認会計士との連携もいいが、料金改定について市民との合意形成があつてこそで、料金値上げに理解を得られるかもしれないし、あるいは老朽化対策が遅れても仕方ないから料金値上げはしないしてほしいという意見があるかもしれない。市民がどのような考えを持っているかにしっかりと耳を傾けて対応を考えてほしい。

③ 第5次静岡市上下水道事業中期経営計画の策定について

修正案提示及び意見聴取（2回目）

資料4 第5次静岡市上下水道事業中期経営計画 第4回協議会委員意見の対応一覧

資料5 第5次静岡市上下水道事業中期経営計画（案）意見反映箇所抜粋

《質疑応答》

[鈴木会長]

それぞれの委員が詳細まで内容を確認したうえで意見をし、それに対し事務局側も丁寧に答え、意見反映可能な部分は計画に反映されていることと思う。いま一度内容を確認いただき疑義がある場合には御意見いただきたい。

（他の委員から特に意見なし）

[鈴木会長]

それでは内容については承認とさせていただきます。

④ 上下水道事業経営協議会の臨時部会の設置について

【（仮称）静岡市清水地区水源検討部会】

資料6 上下水道事業経営協議会の臨時部会の設置について

《質疑応答》

[永野委員]

工業用水をあてにしているよう見受けられる資料であるが、工業用水も市水道と同じように管路等は老朽化が進んでいる。静清工業用水はともかく、ふじさん工業用水は、富士市から水が来ているため、緊急時にあてにできるものとは限らないと思っただきたい。

[柴経営企画課長]

水源検討に関してはあらゆる方策をまずは選択肢におくことを前提としており、ここでは一例として工業用水に触れさせていただいている。様々な法的な制約があるなか、ハードルとなる部分も精査し、そのなかでは工水についても再度内容を検討していきたいと考えている。

[狩野委員]

資料4の所掌事務に「清水地区の新たな水源に係る実現性等を踏まえた対策の立案に関すること」とあり、その結果を踏まえ最適案の決定とあるが、決定までの流れを具体的に伺いたい。

[柴経営企画課長]

現状、どのような最適案が出てくるかわからないが、経営への影響を整理する中で、水道料金の改定に影響するのであれば、市民の合意形成や議会の決定をもつての結論となる。現在の収支状況を維持することが可能な案があれば、少しプロセスは変わるかもしれない。

[鈴木会長]

スケジュール的な部分は資料をみればわかるが、複数案を取りまとめとあるが、部会で検討した複数案を経営協議会で1つの案に絞るのか、あるいは議会において審議して決定するのか、そのあたりをはっきりさせておきたい。

[柴経営企画課長]

「協議会の決定＝最終決定」ではなく、最終的には経営協議会での意見を元に、上下水道局としての対応方針を決定し、その内容を議会や市民の合意形成を行い最終的な決定をしていくこととなる。

[鈴木会長]

まとめると、「①検討部会の結論を元に、②経営協議会で様々な立場の委員により審議を行い、③その結果をフィードバックし、上下水道局が最終な案をとりまとめ、議会に提案していく」ということでよいか。

[柴経営企画課長]

そのとおりである。

[鈴木会長]

それでは部会設置については承認ということによいか。

(一同異議なし)

6 会長挨拶

7 静岡市公営企業管理者謝辞

8 閉会

9 事務連絡

資料8 第4回経営協議会 議事にかかる意見・質問まとめ

※会のなかで内容の確認は行わず、各自確認とした。

資料9 上下水道事業経営戦略 意見記入用紙

資料10 第5回経営協議会 意見記入用紙

資料11 上下水道事業経営協議会の運営等に関する御意見記入用紙

御意見等があれば、令和5年2月13日(月)までに資料9、10、11に記入しメール等にて返送を依頼。

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

(署名) 鈴木 学